

第一編

中期計画進捗状況

～学部・研究科の取組～

I. 平成 26 年度の重点事項，実績及び自己評価

平成 26 年度の重点事項は，1. 教育分野，2. 研究分野，3. 国際交流分野，4. 産学連携・地域連携・外部資金分野，5. 情報・広報分野，6. 組織・人事分野，7. 施設・設備・環境分野，8. 財務・環境，9. 評価分野の 9 分野からなり，それぞれが，【平成 26 年度重点事項】，【平成 26 年度実績】，【平成 26 年度自己評価】で構成されている。

自己評価 I = 「年次計画を実施していない」
II = 「年次計画を十分には実施していない」
III = 「年次計画を十分に実施している」
IV = 「年次計画を上回って実施している」

1. 教育分野

【平成 26 年度重点事項(1)】

(1) 平成 25 年度の改組後に入学した新 2 年生の 1 年次成績を解析し，改組前との比較・検討を行う。また，2 年次開始時の学科・コース配属の満足度を調査し，今後の配属に活用する。

【平成 26 年度実績(1)】

- ・新 2 年生の 1 年次における成績 (GPA) を算出し，前期から後期の成績の推移を検証した。
- ・2 年次開始時における学科・コース配属結果について，ほぼ全員が第一希望の学科・コースに配属され，第一希望から漏れた 3 人の学生についても第二希望の学科・コースに配属されていることから，満足度は高いと評価した。
- ・新 2 年生の 2 年前期成績についても GPA を算出し，成績の推移を検証できる状態にあり，2 月中に学期毎の成績分布図を GPA を指標として作成することを決定した。

【平成 26 年度自己評価(1)】

自己評価 III

【平成 26 年度重点事項(2)】

(2) 紙媒体による授業評価アンケート調査を継続し，教育効果改善へ反映させる具体的方法を検討，実施する。

【平成 26 年度実績(2)】

- ・前年度に引き続き，前期，後期開講科目について紙媒体による授業評価アンケートを実施した。総合評価平均値は 4.16，4.20 (5 点満点) であり，前 2 期 (4.07，4.15) からの上昇を維持した。なお，評点最高位の教員にベストティーチャー賞を授与するとともに，上位 5 名には予算追加配分の際のポイントを追加した。一方，下位 5 名には後期実施のピアレビューへの参加を強く促した。また，後期についても授業評価アンケートを実施し，その結果を各教員に通知し，授業のスキル向上にフィードバックした。
- ・教育効果改善のために，昨年度の授業評価アンケート結果を平成 26 年度自己点検報告書に記載する準備をした。

【平成 26 年度自己評価(2)】

自己評価 III

【平成 26 年度重点事項(3)】

(3) 学士力の評価システムを構築するために、学士力の習熟度を測定する市販テストを引き続き実施すると同時に、社会人対象のテスト結果を分析し、その結果を学生の学士力評価に利用する。

【平成 26 年度実績(3)】

- ・ジェネリックスキル（学士力）を測定する市販のテスト（PROG）を1年生及び3年生を対象に実施し、コンサルティング業者による分析を行い、同コンサルティング業者による解説会を実施した。特に3年生については、1年次で実施した同テストとの比較を行うことで、学士力の向上の確認や今後の課題等について認識することができた。
- ・社会人を対象に実施したテストの分析結果を、学生のテスト結果と合わせて、本学部の傾向を検証した。
- ・平成 26 年度末に FD シンポジウムを開催した。

【平成 26 年度自己評価(3)】

自己評価 III

【平成 26 年度重点事項(4)】

(4) 学生へのメンタルチェック（テスト）を活用し、問題の早期対応体制を定着させる。特に、留学生については、毎学期初めに状況調査を実施する。

【平成 26 年度実績(4)】

- ・メンタルケア調査は、学生の精神的な健康状態を把握し、問題がある場合は保健管理センターの「こころの健康相談」を紹介する目的で毎年実施している。昨年度まで前・後期ともに実施していたが、今年度から前期のみとし、保健管理センターの全面的な協力により、4月の健康診断時に実施した。学部学生の提出率で見れば、昨年度後期の 28.9%から 80.8%と飛躍的に向上しており、問題のある学生には、各学年の学級指導教員が速やかに面談等を実施し、問題の早期対応を図ることができた。
- ・留学生現況調査を実施し、留学生の現状の把握に努めた。加えて、担当教員がフォローアップを行なった。

【平成 26 年度自己評価(4)】

自己評価 III

2. 研究分野

【平成 26 年度重点事項(1)】

(1) 研究科内の研究支援体制を強化し、JAMSTEC など学外研究機関との共同研究を推進するとともに、科学研究費などの競争的資金獲得、大型プロジェクト提案などについて、個々に支援を強化し外部資金獲得の拡大につなげる。

【平成 26 年度実績(1)】

- ・研究科内の研究支援体制を強化するため、本研究科独自の戦略的教育研究支援経費を4名の教員に各 20 万円、1名の教員に 15 万円を配分した。
- ・JAMSTEC との共同研究契約に基づき、本研究科教員と JAMSTEC 所属教員との共同研究を推進した。
- ・競争的資金の獲得に向け、URA 室の協力の下、平成 26 年 9 月 1 日開催の教授会において、平成 26 科研費採択状況分析結果報告を実施し、また、平成 26 年 9 月 2 日に平成 26 年度科研費申請書作成セミナーを開催した。

・競争的資金獲得に向けた施策として、JSPS 二国間交流事業（OP）の申請書作成支援を行った。

【平成 26 年度自己評価（1）】

自己評価 III

【平成 26 年度重点事項（2）】

（2）新規採用の教員に対して、研究スペース及び研究立ち上げ資金を確保すると同時に、若手教員の特別支援を継続する。

【平成 26 年度実績（2）】

・新規採用の教員に対して、研究スペース（約 80 m²）及び研究立ち上げ資金（100 万円）を配分した。（研究スペース：5 名，研究立ち上げ資金：4 名）
・本研究科独自の国際交流基金にて国際学术交流のための教職員海外派遣事業の募集を行い、若手を優先に採択し、海外における研究発表の渡航費支援を行った。（8 名の採択）

【平成 26 年度自己評価（2）】

自己評価 III

3. 国際交流分野

【平成 26 年度重点事項】

従来の協定校との連携を点検・評価・改善するとともに、教育・研究の両面から実効性のある海外教育研究機関との連携を強化する。

【平成 26 年度実績】

・従来の東アジアの協定校から学生を招へいし開催していた東アジア海事科学国際学生シンポジウムを見直し、今年度は東アジア圏だけでなく全世界の協定校を対象とした海事科学国際シンポジウムを開催し（2014 年 11 月 10 日～14 日）、東アジアの他、アメリカ・オーストラリア・フランス等計 10 カ国から 4 件の基調講演と 40 件の研究発表を行い、本学の教員・学生を含む約 100 名が参加した。なお、シンポジウムの開催とともに、協定校の国際交流担当者との今後の連携強化に向けて意見交換を図るなど実効性のある交流を行った。さらに、内容について、協定校の研究者を含む 4 名の基調講演を加え、学生主体から若手研究者も視野に入れた学術シンポジウムとし、協定校との連携強化に努めた。
・協定校の上海交通大学から副学長等が来訪し（2014 年 7 月 15 日）、今後の実質的な学生の相互派遣（長期留学・サマースクール）について検討を行った。
・海外から研究者を招へいし、院生・学部生を対象としたサマースクールを実施した（学部「海事を科学する I・II」：2014 年 8 月 5，6，7，8 日，大学院「特論 海事を科学する I・II」：2014 年 8 月 4，5，7，11 日）。
・平成 26 年 4 月に協定校から 2 名の特別聴講学生の派遣があった。

【平成 26 年度自己評価】

自己評価 IV

4. 産学連携・地域連携・外部資金分野

【平成 26 年度重点事項（1）】

（1）主要な研究成果の発表を支援し積極的な研究成果公表を支援するとともに Web などでも示し広報の強化に努める。

【平成 26 年度実績（1）】

- ・本研究科独自の寄附金「国際交流基金」の支援の下、応用物理学会放射線分科会との共催で平成 26 年 9 月 15 日～19 日に第 26 回「固体中核飛跡に関する国際会議」を開催した。本学 HP の他、学長定例記者会見にてマスコミに対し広く広報を行った。
- ・海洋再生可能エネルギーへの関心が高まる中、「潮流発電フィールド実験の取り組み 一過去から未来へ」というタイトルで、10 月 9 日にシンポジウムを開催し、研究成果を発表し、自治体、企業及び教育・研究機関など多方面から 56 名が参加した（自然科学系先端融合研究環重点研究チームとの共催）。本研究科は、この研究を重要な研究テーマのひとつと判断し、本シンポジウムに海事科学部 90 周年記念基金から支援を行った。
- ・日本で唯一開催する海洋関連分野の総合的展示会「Techno-Ocean2014」（平成 26 年 10 月 2 日～4 日）に出展した。
- ・戦略的シンポジウム「原子力災害時における船舶の活用」を平成 27 年 3 月 10 日に開催した。

【平成 26 年度自己評価（1）】

自己評価 III

【平成 26 年度重点事項（2）】

- (2) 国際海事研究センターや研究チームを中心に研究公表のためのシンポジウムを開催し、関連研究機関・企業への PR を行い、新たな連携強化を促進して外部資金獲得につなげる。

【平成 26 年度実績（2）】

- ・国際海事研究センターにおいて、平成 26 年 7 月 17 日及び平成 26 年 9 月 30 日～10 月 3 日に部門毎のセミナーを開催した。
- ・平成 26 年 8 月 25 日及び 26 日に神戸大学ブリュッセルオフィスにて IAMU の MARD プロジェクトによるワークショップを開催した。
- ・平成 26 年 8 月 29 日に横浜国立大学にて第 2 回海洋と宇宙に関するセミナーを開催し、横浜国立大学及び東京海洋大学と共同で産学連携を推進した。
- ・北海道大学及び横浜国立大学並びに東京海洋大学と共同で産学連携を推進するため、平成 27 年 4 月に第 3 回海洋と宇宙に関するセミナーの開催を決定した。
- ・平成 26 年 12 月 11 日及び 12 日にイスタンブール工科大学にて第 6 回 AIS ワークショップを開催した。
- ・国際海事研究センターにおいて、各部門において展開されている研究成果、最近のグローバルな変化に関連するテーマも交えて広く公開し、情報交換を行うための総合セミナーを平成 26 年 12 月 18 日に開催した。

【平成 26 年度自己評価（2）】

自己評価 III

【平成 26 年度重点事項（3）】

- (3) 地域連携については、深江丸、総合水槽、船舶運航シミュレータなど大型設備を活用し、社会人の再教育、他大学・小中高生のための教育などについて連携を促進する。

【平成 26 年度実績（3）】

- ・神戸市東灘区との間で締結している地域連携協定に基づき、平成 26 年 7 月 25 日に「夏休み子どもいろいろ体験スクール」を実施し、附属練習船「深江丸」の船内見学、ロープワーク（結索）実習、神戸大学海事博物館の見学、実習船「白鷗」の体験乗船に保護者とともに 36 名の小中学生が参加した。

- ・深江丸に乗船し海上から尾道を訪問し町並みや海上をスケッチする公開講座「船で巡る瀬戸内スケッチ旅行～美術と食を通じて物流を考える～」(平成26年7月31日～8月3日)を実施し、27名が参加した。アンケートでは、全員が満足した旨の回答を得た。
- ・神戸運輸監理部が実施する「みなと・船の役割大発見!海事施設見学会」で小学生23名が船舶シミュレータ・機関シミュレータを見学しシミュレータの操船を体験した。アンケートでは、約7割が楽しかったと回答した。
- ・日本船舶海洋工学会との共催(海事科学振興財団後援)で「海と船に楽しむ」とのタイトルで平成26年8月23日及び24日に小学5・6年生を対象に航海体験を通じ船や海に親しむ体験型海洋セミナーを実施した。船や海洋への科学的興味を喚起するとともに、環境保全に対する意識の芽生えや船内での共同生活を通じて協調性を学ぶ機会となった。
- ・平成26年8月23日及び24日に海事思想の普及を目的として、体験型イベント「発見・体験!船の世界」を実施し、グランフロント大阪を訪れる親子連れなど一般の方々にシップ・シミュレータを用いた操船体験等を提供した。2日間で約270名が来場した。
- ・高校に対して3件の深江丸、船舶運航シミュレータを使用した模擬講義等を実施した。
- ・SSH事業に協力して複数の高校(奈良学園高校:11月25日、大阪府立千里高校:12月15日)に対して深江丸等の見学を実施した。
- ・平成27年1月6日に神戸市みなと総局による「神戸・みなと体験」を開催し、小中学生を対象に操船シミュレータ及び機関シミュレータ体験等を実施し、保護者を含む計33名が参加した。
- ・兵庫「咲いテク」事業推進委員会(兵庫県内のSSH指定9校と県教育委員会の合同組織)が主催する第7回サイエンスフェア in 兵庫(平成27年2月1日、神戸国際展示場)に協力し、海事科学研究科から5つの研究室がポスターセッションで研究内容を説明するとともに、高校生・高専生による発表に対してアドバイスを行った。

【平成26年度自己評価(3)】

自己評価 IV

5. 情報・広報分野

【平成26年度重点事項】

ステークホルダーである保護者や企業に対して、学部・研究科の学生対応、カリキュラム内容、輩出した人材の能力及び就職先等に関するアンケートを実施し、意見を集約する。

【平成26年度実績】

- ・人事担当者との懇談で卒業生の動向・企業側に要望についての把握に努めた。
- ・新入生に対しアンケートを実施し、本学部の情報を得た手段について調査を行った。また、平成26年5月17日に開催した学生後援会理事会において、事前に保護者から聴取した質問に対し回答を行うとともに、理事会終了後に、意見交換を行った。
- さらに、平成26年5月25日に開催した学生後援会総会において、新入生アンケートの結果及び理事会における質問・回答を公表するとともに、意見を伺った。
- ・平成26年11月に実施した学生後援会行事において保護者にアンケート結果を公表した。
- ・保護者からの船舶実習、就職支援、進学指導等に関する質問に対して本学部HPで回答を公表した。
- ・平成27年3月9日に開催した合同企業説明会参加企業にアンケートを実施した。

【平成26年度自己評価】

自己評価 III

6. 組織・人事分野

【平成26年度重点事項(1)】

(1) 若手, 女性及び外国人を対象にインセンティブ教員の採用を目指す。

【平成 26 年度実績 (1)】

- ・インセンティブ助教の採用に向けて選考要領等を検討し, 募集, 選考を行い, 平成 27 年 4 月に 1 名の採用を決定した。
- ・4 月に特命助教を含む 4 名の若手教員 (30 代) を採用した。これにより, 専任教員に対する若手教員 (30 代) の割合が平成 25 年度 4 月 1 日現在の 6.8% から 14.1% (平成 26 年 4 月 1 日現在) に上昇した。
- ・2 名の外国人研究員を採用した。
- ・平成 27 年 4 月に女性教員 1 名を准教授として採用することを決定した。

【平成 26 年度自己評価 (1)】

自己評価 IV

【平成 26 年度重点事項 (2)】

(2) 平成 29 年 4 月の大学院改組のために, 教育組織と教員組織の構成を検討する WG を立ち上げる。

【平成 26 年度実績 (2)】

- ・平成 29 年 4 月の大学院改組のために, 教育組織と教員組織の構成を検討する WG の設置に向け, WG のメンバーを検討の上, 平成 26 年 10 月に将来計画検討 WG 及び大学院改組準備 WG を立ち上げ, 具体的な改組の内容を検討し, 大学本部と折衝を行った。
- ・教員組織の構成を検討するために, 教員採用, 昇任の基準を再検討するために, 業績評価 WG を設置した。

【平成 26 年度自己評価 (2)】

自己評価 III

7. 施設・設備・環境分野

【平成 26 年度重点事項】

近隣の国公立大学との教育面での深江丸の共同利用を促進し利用実績を蓄積して練習船の教育関係共同利用拠点施設認定を目指す。

【平成 26 年度実績】

- ・平成 26 年 7 月 31 日付けで文部科学大臣から附属練習船深江丸の教育関係共同利用拠点が認定された。
- ・教育関係共同利用拠点である附属練習船深江丸の他大学等による共同利用を促進し, プログラム内容の質の向上を目指した。

【平成 26 年度自己評価】

自己評価 IV

8. 財務・環境

【平成 26 年度重点事項】

創基 100 周年基金募金活動の基本方針と計画を策定する WG を立ち上げる。

【平成 26 年度実績】

- ・創基 100 周年の記念事業について検討を行い，募金活動の目標額を検討した。また，募金活動の基本方針及び実施について検討を行うための WG の設置に向け，WG のメンバーを検討した。
- ・創基 100 周年記念事業の方針に則り募金活動を開始するための WG 等を立ち上げ，趣意書の作成など具体的な内容を検討した。

【平成 26 年度自己評価】

自己評価 III

9. 評価分野

【平成 26 年度重点事項】

H22-24 年度の自己点検報告書の評価に基づき，必要な改善策を実施し，H25-27 年度の第二期中期計画の外部中間評価を行う自己点検報告書の作成及び外部評価を実施する。

【平成 26 年度実績】

- ・平成 25 年度に実施した外部評価及び自己点検評価について，評価書を刊行するとともに，改善点の抽出を進めた。
- ・改善点を抽出した結果，研究論文数について正確な数値を把握し，更なる KUID への研究業績の入力向上に向け，平成 26 年 10 月 15 日開催の教授会において啓発した。

【平成 26 年度自己評価】

自己評価 III

